

10 歳代の米澤傑

このホームページの「プロフィール」の下段の

[インタビューによるプロフィール紹介（米澤傑テノールリサイタル徳島リーフレット 裏面より）](#)

あるいは、「近況報告」の下段の「リーフレット」の

[裏面（インタビュー記事）](#)

をご覧くださいますと、前半の部分に、中学校から高校にかけての「音楽との出会い」について詳しく書かれていますので、そこに書かれていない「10 歳代の米澤傑」を思い返してみます。

鳴門第二中学校から徳島県立城南高校へ進学しました私は、鳴門市からと徳島市まで「汽車通学」をしていました。まさに、石炭で動く「蒸気機関車」に引かれた列車の中でかなりの時間を過ごしたことになりますが、単に、無駄な時間を過ごしていたのではなく、列車内は、グループ勉強を行う「小教室」であり、会話を楽しむ「社交場」でもありました。徳島県立城南高校は、まさに“自由”の気風溢れる快適な「居場所」であり、勉学と平行して、様々な部活動が行われていました。

私は、入学と同時に、バレーボール部と音楽部に入りました。ただ、バレーボール部には部員が4名しかおらず、試合に出ることも出来なかったのですが、日々、トス、アタック、回転レシーブ等の練習をして汗を流すことで満足していました。

音楽部には、歌を趣味にする人達、様々な楽器を演奏する人達の多彩な人物が、かなりの人数集まっていました。高校2年生の時に、私が部長に選任され、校内最大の催しである秋の文化祭で、音楽部として何を披露しようか、ということになり、ミュージカル「マイ・フェア・レディ」を上演しようということに決まりました。3年生で英語の得意な先輩が、英語の台本の全てを、歌いやすい日本語に訳してくださり、土台が出来上がりました。主役のイライザ役には快活な女子生徒（後に、地元放送局の人気アナウンサーになられました）が決まり、言語学者であるヒギンズ教授には1年生の芝居好きの男子生徒、イライザの父親のドゥーリトルには立本利博君（このホームページの「近況報告」で紹介されています、徳島での「米澤 傑 テノール・リサイタル」のお世話をしてくださった私の親友です）、そして、本筋とはあまり関係ないけれども「君住む街角」という美しいメロディーの歌を歌うフレディ役を、私が演じながら、総監督と演出も私が担うということになりました。

各々の舞台衣装は、それぞれ個人で準備し、舞台装置も手作り（体育館の狭い舞台に、立体的なものは無理ですので、ほとんど、絵を描いて間に合せ、テーブルや食器等の小物だけ本物を使用しました。ピアノの得意な音楽部員が必要なメロディーをずっと弾き続ける中、ところどころに、様々な楽器の演奏を加え、“立体感”を持たせるという工夫もいたしました。そのような努力の結果、「マイ・フェア・レディ」公演は大成功で、その話題は後々まで語り継がれました。

「マイ・フェア・レディ」とともに、私の高校時代の大きなハイライトは、「徒歩旅行」です。まずは、高校2年生の夏休みに、鳴門市から徳島市を経て、山の方に向かって吉野川添いの道をさかのぼり、四国の「へそ」とも言える池田町を経て南下し、高知市を目指すという、全行程200キロメートルを5日間で踏破するという“大旅行”です。私の親友の2人とともに、3名でこの大旅行に挑戦しました。1泊目は、徳島市の私の叔母の家に泊まりました。2泊目は、徳島市と池田町の間地点である脇町の安旅館に宿泊、3泊目は、池田町のお寺に宿泊させて頂きました。そのお寺でご馳走くださいましたカレーライスの味を今も忘れることは出来ません。4泊目は、池田町と高

知市の中間地店にある大豊町のユースホステルに宿泊し、5日目の夜遅くに高知市に到着しました。高知市到着の直前の小高い山から見た、街の灯りが点灯している高知市の夜景は、いまでも懐に残っています。

さて、この夏の「5泊徒歩旅行」の成功に気を良くして、その年の暮れも近い冬に、後輩と2人で、高松市から鳴門市まで、間にある「讃岐山脈」を乗り越えての全行程80キロメートルを一気に縦断することを試みました。高知市への夏の「徒歩旅行」は“暑さ”で大変でしたが、この高松市からの「山脈越え縦断」は“寒さ”との戦いで、「讃岐山脈」の頂上付近に達した時には、雪が降り始め、しかも、完全に道に迷ってしまいました。日は暮れかかるし、このままでは「遭難」という二文字が頭をよぎりました。そこで、私がとった行動は、とにかく出来るだけ高い所に登って、周囲の地理をハッキリ把握しようということでした。急いで、山頂近くまでの登りましたところ、眼下の樹木の間、アスファルトで舗装された自動車道を発見でき、その方向に向かって下山をして、その自動車道に辿り着くことが出来ました。後は、ひたすら、その自動車道を歩き、夜中遅くになって、なんとか鳴門市に帰着できました。自宅に帰り着き、玄関で、リュックサック等の装備を放り出して、しばらくグッタリと横になっていました。まさに「遭難」一歩手前の危ない「山脈越え縦断」でした。

なお、高校2年生の時の修学旅行は、各々の生徒の希望により、2つの旅行案の「東京方面の有名大学見学ツアー」と「九州方面の温泉旅行」から選択することが可能で、徳島県随一の進学校であった私ども城南高校の9割方の生徒は「東京方面の有名大学見学ツアー」を選びましたが、私は迷わず「九州方面の温泉旅行」を選びました。船で別府港に着いて、まずは「別府温泉」を楽しみ、翌日は、宮崎に行って様々な名所観光、3日目は鹿児島での名勝庭園「仙巖園（通称“磯庭園”）」のすぐ南隣にあった「水明山荘」という旅館に泊まり、翌朝は早起きをして、桜島から登る朝日を見て大変大きな印象を受けました。今でも、その光景が目には浮かび上がります。まさに、これで、私の鹿児島大学への進学が決まった訳で、人生の大きな分岐点であったこととなります。その翌日の4泊目には、熊本の山鹿温泉に宿泊、5泊目には武雄温泉で楽しんでから、帰途に着くという豪華旅行で、「東京方面の有名大学見学ツアー」を選んだ生徒の気持ちが分かりませんでした。

以上のように、10歳代の私は、バレーボールの部活練習、音楽活動とそのまとめ役、無謀ともいえる「徒歩旅行」、そして、人生の将来をも決める「九州方面の修学旅行といった様々な経験をいたしました。

(2021年9月2日記)